

科目名：老年看護学概論	配当年次1年	開講時期 1年後期
単位・時間： 1単位（ 15時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 森田 真弓	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>高齢化が世界に類をみないスピードで進んでいるわが国において、社会が看護師に求めるニーズはさらに高まっている。そのニーズに応えるべく、老年看護学の概要と役割・機能を理解し、わが国の社会構造の変化や高齢者の生活を維持するための社会保障システムについての知識を学ぶとともに“老いる”ということを考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年看護の対象を理解する。</li> <li>2. 高齢者の健康特性や生活環境がわかる。</li> <li>3. 高齢社会を支える保健医療福祉システムがわかる。</li> <li>4. 老年看護における倫理について考えられる。</li> <li>5. 老年看護の特徴や果たすべき役割がわかる。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者とは わが国の高齢化の現状</li> <li>2. 高齢者の健康特性と生活状況</li> <li>3. 老年期にある人の身体的・心理的・社会的側面の変化</li> <li>4. 高齢社会と社会保障制度</li> <li>5. 老いるということ 高齢者の発達とは</li> <li>6. 老年看護における倫理</li> <li>7. 老年看護の目的と特徴</li> <li>8. 筆記試験</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 90%、課題取り組み 10%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b>  系統看護学講座 老年看護学 医学書院 eテキスト</p> <p><b>【参考文献】</b>  国民衛生の動向 厚生統計協会  水谷 信子：老年看護学 日本看護協会出版会 2017年版  太田喜久子：高齢者の健康生活を支える看護 医歯薬出版 2017  正木 治恵：老年看護学概論 南江堂 2016</p>	
履修上の注意事項		

科目名：老年看護学方法論 I	配当年次 2 年	開講時期 2 年後期
単位・時間： 1 単位 ( 3 0 時間)	授業の方法：講 義	
担当者：三浦 順子、長谷部 千恵	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>加齢に伴う心身の変化、その加齢による変化が生活に与える影響について学び、高齢者に対する基本的な知識・技術・態度を学ぶ。さらに、疑似体験を行うことで、高齢者の生活を実感して理解につなげてほしい。</p> <p>また、高齢化に伴い増加している認知症高齢者に対する基礎的知識を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疑似体験を通して、加齢変化が生活全般に与える影響を体験する。</li> <li>2. 加齢変化および加齢変化が生活に与える影響がわかる。</li> <li>3. 加齢変化のある高齢者に対して、日常生活援助を考え実践する。</li> <li>4. 認知機能に障害のある高齢者に起こる症状やコミュニケーション技術がわかる。</li> </ol>	
授業の計画	<p>1.2 高齢者のヘルスアセスメント</p> <p>3.4 高齢者にみられる身体加齢・身体症状とアセスメント（グループワーク）と発表</p> <p>5.6 疑似体験 体験者・介助者・観察者・時間管理者 5 人 1 組となり実施する</p> <p>7～10 加齢変化が日常生活に与える影響とアセスメント</p> <p>11.12 高齢者の生活を支える看護技術の実践</p> <p>13.14 認知機能に障害のある人の看護</p> <p>15. 筆記試験／まとめ</p>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 80%、レポート 10% 課題取り組み 10%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b>  系統看護学講座 老年看護学 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b>  必要に応じて配布</p>	
履修上の注意事項		

科目名：老年看護学方法論Ⅱ	配当年次 2 年	開講時期 2 年後期
単位・時間： 1 単位 ( 3 0 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 森田 真弓	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>高齢者の特徴を踏まえ、老年期に発症しやすい健康障害の特徴と健康障害のある高齢者に対する看護を学ぶ。また、それぞれの健康障害の特徴を踏まえ、健康の段階に応じた看護を学ぶ。</p> <p>疾患をもった高齢者の健康の段階に応じた看護実践を行うため、看護技術を考え実践する。</p>	
授業の計画	<p>1. 2. 3. 4. 脳神経に障害のある高齢者の看護</p> <p>5. 6. 7. 呼吸器に障害のある高齢者の看護</p> <p>8. 性・生殖器に障害のある高齢者の障害</p> <p>9. 10. 11. 12. 運動機能障害のある高齢者の看護</p> <p>13. 14. 疾患をもった患者に適応した看護技術演習</p> <p>15 筆記試験／まとめ</p>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 80%、レポート 20%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 e テキスト</p> <p>系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 e テキスト</p> <p>系統看護学講座 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 e テキスト</p> <p>系統看護学講座 成人看護学 [10] 運動器 医学書院 e テキスト</p> <p>系統看護学講座 リハビリテーション看護 医学書院 e テキスト</p> <p>系統看護学講座 老年看護学 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>太田喜久子：高齢者の健康生活を支える看護 医歯薬出版 2017</p> <p>高木 誠：実践脳卒中ケア 医学書院 JNN スペシャル</p> <p>ナーシング・グラフィカ 13 脳神経・感覚機能障害 メディカ出版</p> <p>ナーシング・グラフィカ 10 呼吸・循環機能障害 メディカ出版</p>	
履修上の注意事項		

科目名：老年看護学方法論Ⅲ	配当年次 2 年	開講時期 2 年後期
単位・時間： 1 単位 ( 1 5 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 森田 真弓	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>老年期に発症しやすい疾患をもっている人のペーパーペイシエントを用いて、ゴードンの機能的健康パターンをアセスメントツールとして看護過程を展開する。疾患の理解のみではなく、加齢による身体的機能の低下や心理面の変化、それまでの生活を意識して対応できる能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象を理解するための学習（加齢変化を含む）の視点がわかる。</li> <li>2. 1 の視点の知識を活用し、文章を使って他者に説明できる。</li> <li>3. 必要な情報を使い、看護の視点でアセスメントする能力を養う。</li> <li>4. 看護上の課題が明確になり、課題に対する計画の立案ができる。</li> </ol>	
授業の計画	<p><b>【講義計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢による身体的機能の低下や心理面の変化、それまでの生活過程の特徴の意味と、事例の対象を理解するために必要な学習</li> <li>2. 情報をもとに情報の説明</li> <li>3. 仮診断に基づき、定義・指標・関連因子を記述し、確定診断</li> <li>4. 整理・解釈・照合をもとに CP・NDx・NC の根拠・優先順位</li> <li>5. 6. 看護計画</li> <li>7. 行動計画</li> <li>8. 筆記試験</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 25%、グループの取り組み・課題達成度を総合的に見て判断する。75%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 e テキスト  系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 e テキスト  系統看護学講座 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 e テキスト  系統看護学講座 成人看護学 [10] 運動器 医学書院 e テキスト  系統看護学講座 リハビリテーション看護 医学書院 e テキスト  系統看護学講座 老年看護学 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p>	
履修上の注意事項		